

## 【議事録】第5回 岡崎活性化本部乙川リバーフロント推進部会

日 時：平成27年2月12日（木）14時00分～16時00分  
会 場：市役所 西庁舎7階 701号室

### 概 要

これまでの議論についてのまとめを報告した。続いて今後の取り組みとして、乙川合流点付近伊賀川への仮栈橋の設置案及び来年度の体制等について説明を行った。仕上げとして内田市長を交えて、これまでの議論や今後に向けた意見交換を行った。

### 議事内容

#### 1 開会

岡崎活性化本部より開会宣言。

#### 2 あいさつ

部会長より開会のあいさつを行った。

- ・ 2年間の総括及び今後の展開について話をしたい。
- ・ リバーフロント整備事業は岡崎にとって大切な事業であることは間違いない。
- ・ 次に繋がる議論をしたい。

#### 3 議 事

##### (1) これまでの乙川リバーフロント推進部会の議論について

岡崎市より、これまでの乙川リバーフロント推進部会での議論について説明を行った。

※別紙「これまで乙川リバーフロント推進部会の議論について」参照

##### 〔意見交換〕

##### 部会長

- ・ 一番気になるポイントはカテゴリーI（資料）。観光産業化は大事であるが、岡崎のポテンシャルや資質から、観光産業が本当によいのか、様々な観点から考える必要がある。
- ・ 市民の参加という点から中心市街地だけでなく全市民を含めた合意形成が必要であり、本当の意味での市民のシンボルになるとよい。
- ・ 現在の市民の意識としては、地域間の格差、若干の不公平感など感じていると思う。乙川リバーフロント地区整備事業がオール岡崎となるように様々な手法を使い、詰めながら進めていく必要がある。

##### 部会員

- ・ 観光産業化を進めるべきだと考える。観光産業でお金を稼げる人が増えれば、その人たちは岡崎について考えるようになる。シビックプライドを持ってと言っても、勉強が好きな人以外は勉強しない。
- ・ オール岡崎市民がシビックプライドを勉強するためには、観光事業が起こり、土産開発等の事業を考える中で、徐々に醸成されていく。

- ・ よい事例として福岡県の柳川の人たちは、観光客が増えるに従い、自分たちのまちについて勉強を始める人が増えた。
- ・ 観光産業を活用してシビックプライドを醸成させていければと思う。
- ・ 岡崎は「江戸のふるさと岡崎」。江戸時代の平和については、世界中から注目を集めている。日本人は好戦的ではなく平和愛好民族だと言われることから、江戸時代が注目を集めている。「岡崎がしっかりと観光・まちづくりを行うことが、日本及び世界のためになる」というプライドを持って進めていければと思う。

## (2) 仮棧橋について

岡崎活性化本部より、仮棧橋について説明を行った。

### 〔意見交換〕

#### 部会員

- ・ 駐車スペースが40、50台程度の箇所(乙川右岸明神橋上流河川敷：現在テニスコートとして利用)からのアクセスにどれだけ意味があるのか。

#### 部会員

- ・ 仮棧橋については、他の箇所でも使用する可能性がある。そのときのために、しっかりとデータを取ってほしい。
- ・ 河川の横断は、堤防ではなく河川敷間で出来ることが理想だと考える。仮棧橋の実験は是非行ってほしい。

#### 部会員

- ・ 仮棧橋の設置はどのくらいの期間か。また、常設か。

#### 事務局長

- ・ 期間は確定していない。来年度に実験ができればよいという考えである。
- ・ 仮棧橋は仮設である。増水時には撤去する必要がある、常設は難しい。

#### 部会員

- ・ 工事の仮設のような中途半端な風景に見えてしまうとよくない。

#### 事務局長

- ・ 仮設であっても風景に溶け込むような色、形、デザインは必要だと思う。

#### 副部長

- ・ 何をつくるかのよし悪しではなく、何のためにつくるかのよし悪しである。そのための予算、景観について議論の組み立てがあってしかるべきである。
- ・ 「これだけの効果があるため絶対必要」ということがあって、予算との兼ね合いが可能となる。無いよりはあった方がよいという考えではなく、目的を明確にする必要がある。そのため、仮棧橋については、判断しかねる。
- ・ 春には伊賀川の水面が「桜のじゅうたん」のようになる。仮棧橋の設置により、ボート等が伊賀川へ入れなくなるデメリットもある。その辺りも総合的に考えていただければと思う。

#### 事務局長

- ・ 岡崎公園は市民共有の財産となっていない。無料駐車場がなく市民が来にくい。その中で、明神橋付近のテニスコートを駐車場として活用できるのか検討している。また、岡崎の人は、アクセスが悪いと利用しない。その対応策として、仮棧橋の実験を行ってみてはどう

かということ。

- ・ 将来的には脱自動車社会が来るかもしれない。また、来ないかもしれない。現段階では、市民が岡崎公園へ車で来られて、憩える空間となることが目的であり、アクセス性の向上として、大きな設備投資のない駐車対策として仮栈橋の実験を行おうと考えている。
- ・ 東公園、南公園、中央総合公園としっかり比較して検証する必要がある。
- ・ 市街地以外の方の合意形成が不十分である。

#### 副部長

- ・ 目的は納得できた。その上で、税金として使うのであれば、50 台程度の駐車場で、本当に効果的なのかを検証する必要がある。
- ・ イベント時ではなく、日常的に訪れる場合の駐車場無料化サービスを市民にPR する方法案を出し合うことが建設的かと思う。

#### 部会員

- ・ リバーフロントを突き詰めていくと、どれだけ川を有効に利用できるかということが大事である。
- ・ 仮栈橋の実験を一度実施して、ノウハウを自分達の血肉にする、という意味で賛成である。
- ・ 駐車場について話が出たが、桜祭りの時に他の駐車場が満車になっていることはほとんどない。十分駐車できる。
- ・ 仮栈橋の実験は乙川で行うのは難しい。細い伊賀川で行い、仮栈橋とは何かを血肉とし、乙川事業の他の箇所にも実施できる財産とすることに賛成である。

#### 副部長

- ・ その目的に対しての方向としてはよいと思うが、先ほどの目的とは異なる。目的に対して方法を考える必要がある。目的が変化し、目的と方法がちぐはぐになり、結果として成功か失敗かわからなくなることは公金を使う上でよくない。
- ・ 目標を定めた上で、失敗に対しては解決策を考え、積上げることが大事である。

#### 事務局長

- ・ 岡崎公園・河川敷が岡崎の顔となる場所になるために、必要なことは駐車場ではないかも知れない。必要なことは何か、もっと民間レベルで話し合っていく必要がある。

#### 部長

- ・ 訪れやすい場所にするための仕掛けは大事であるが、乙川リバーフロント地区整備事業のメリットが全市的に行き渡っていく仕掛けを作り出す必要がある。それが地域間格差や不平等感を和らげていくと思う。それがオール岡崎の乙川リバーフロント地区整備事業につながっていくのではと思う。

#### 部会員

- ・ 乙川リバーフロント地区で行った実証実験が全市的に利用されることになればよいと思う。そうやって初めて全市的な支持を受けられると思う。
- ・ 地域の総代として言わせていただければ、内容によって純生活的なことか全市的なことか様々である。
- ・ 仮栈橋について、元々は歩車道の分離や渋滞の話から竹千代橋拡幅の提案があり、そこから始まった話が難しいからといって仮栈橋設置に移るのはどうか。

### (3) 来年度の体制等について

- ・ 岡崎市より、乙川リバーフロント協議会について説明を行った。
- ・ 事務局長より、乙川リバーフロント活用実行委員会について説明を行った。

#### 〔意見交換〕

##### 部会員

- ・ リバーフロントの事業を具体化した場合、採算性や実現性について多数の問い合わせがくると思う。なぜなら、岡崎市民は観光によるお金儲けの経験がないためである。
- ・ 事業は、市民を巻き込み、市民の誇りをつくるために進めて行くのだが、現実には、市民の生活を豊かにする新しいインカムをつくるという事業経営と同じ観点であり、市の職員にも肝に銘じていただく方法を考えてほしい。

##### 部会員

- ・ 今まで観光協会はイベントを進めてきた協会であり、外から観光客を呼び込む活動はしてこなかったが、乙川リバーフロントに観光客を呼べるツールができることで、しっかりと利活用して行きたいと思う。

##### 事務局長

- ・ 観光協会と協力し家康公顕彰 400 周年の事業を行っている。活性化本部に 2 名専従職員を置いている。
- ・ 乙川リバーフロントという魅力を観光資源として活かすためには、ハード整備の次は営業、広報活動である。お金を落としていただく仕組みをつくることは行政ではなく民間がやるべきことだと思う。乙川リバーフロントもシティプロモーションや観光産業化と一体的に事業を進めていくことが大事である。
- ・ 観光船については、事業として経営する場合は 150 万人の実質的な入り込み客数が必要。

##### 岡崎市

- ・ 「かわまちづくり」支援制度について説明を行った。
- ・ 「かわまちづくり認定のための計画書」を国、県へ 2/6 付けで申請した。
- ・ 来年度の庁内体制について説明。現拠点整備課乙川リバーフロント班から乙川リバーフロント推進課として業務を行う。人数は未確定であるが、「総務班」「企画調整班」「技術班」の 3 班体制で業務を行う計画である。

##### 副部長

- ・ 民間の体制について説明を行った。
- ・ これまでの話の中で色々積み残した部分がある。市民の合意という問題提起もあったが、「何をつくるか」に対する良い悪いが出にくく、出ても好き嫌いになりがちである。これから大事なことは、「何のためにつくるか」という理由の部分に共感してもらえるかどうかである。
- ・ 「何のため」ということが余り浸透していない。
- ・ 今後、行政、民間が手を取り合い、よいものにするという話合いの場を設けられないかと協議している。
- ・ 自分達も意見も言うし、実際に動かして行くという仕組みをつくっていききたい。

##### 事務局長

- ・ 活用実行委員会の他に、りた・まちづくり岡崎・岡崎活性化本部でコンソーシアムをつくる。民間の投資についての誘導、ワークショップ、意見交換を実施していきたい。

#### (4) 意見交換【内田市長参加】

##### 部会長

- ・ 岡崎市の歴史の中で「乙川をなんとかしよう」ということは悲願であった。本腰を入れるというところで内田市長が就任された。タイムリーに家康公顕彰 400 周年、市政 100 周年と合致する時期に内田市長が出発させた。条件としてはよいし、乙川リバーフロントを活性化することは本当に意義のある事業である。
- ・ オール岡崎のプロジェクトになるような仕組み作りが必要である。
- ・ 部会員の我々が市民や身近な人にヒアリングするとまだ市民の温度差がある。
- ・ 何のための誰のための整備事業かをもう一度押さえて進めていけるとよい。
- ・ 21 世紀は環境の時代である。乙川リバーフロント地区整備事業を介して、人間性の回帰や、観光振興など、生き方も含めた幅広いコンセプトを盛り込むことが重要である。

##### 副部会長

- ・ 先ほどのように議論を戦わせることは有意義だと思う。
- ・ 今まで時間の制約などで中々話せなかったことも多々あったが、これから意識を持って意味のある議論を重ねていき、市民と一緒に岡崎を盛り上げられるかが重要。
- ・ 一度、岡崎の外に出た身としては、外にいるからこそ見える岡崎のよさと、地元に残っているからこそ言える誇り、愛着などをどれだけ増やせるかが大事。
- ・ 岡崎で生まれ、外に出ててもまた戻って来たいと思う人。外から岡崎に行ってみようかと思う人。それをどれだけ増やせるかという段階にきていると思う。プロモーションを含めて、官民が一丸となって岡崎をよりよくすることをつくり上げたい。

##### 部会員

- ・ 観光産業とするのかどうするかは、重要な視点であるが、行政で完成形を見るのではなく、岡崎市民と一緒に育て合いながらつくり上げていくことが、まちのあり方だと思う。
- ・ 京都・鎌倉などは市民も育ちながら、行政も環境をつくりながら、お互いの相乗効果でまちをつくる関係性があり、そこに魅力的な場所ができてくると思う。
- ・ 外からのことだけを考えると市民が置いていかれる。市民が楽しめないテーマパークとなる。それは避けたいし、自分自身も楽しみたい。乙川リバーフロント地区は、一体となって市民と環境づくりを行える場である。そこで市民も育っていく。
- ・ 歴史も重要である。また、新しいものも重要だと思った。
- ・ これからも市民、特に若い人を巻き込んで話し合いながらまちづくりを進められるとよいと思う。

##### 部会員

- ・ 以前から乙川には水・緑があり、岡崎のセントラルパークであると言ってきた。
- ・ 岡崎の経済界の人からは、岡崎が発展しないのは、乙川と国道一号線によって分断されているからと語られてきたが、そうではない。国道1号についてはほとんど話ができなかったが、国道1号も観光資源となりうる。岡崎は徳川家康が生まれた土地で、東海道を整備したのは家康公である。その新しい東海道が国道1号である。
- ・ 国道1号をどうすれば観光地とできるのか、あっと驚くアイデアを皆さんで出していきましょう。ヒントは大垣共立銀行がよいと思う。

##### 部会員

- ・ 乙川リバーフロント推進部会に参加していつも思うことは、もう乙川リバーフロントの話

だけではすまないということ。他に「まち」があり、最終的に「人」にたどり着く。いかに面白い人が色々なことを考えて実行できるかということである。

- ・ 岡崎家康プロジェクトの人達も待ちきれずに八丁みそのものを作るなど活動している。上手にお互いがよくなるように連携できればと思う。
- ・ これまでは整備など難しい話が多かったが、これからは柔らかい色々な話を考えられるとよいと思う。

#### 部会員

- ・ 今後、都市の活性化を進める上でのモデル事業としての捉え方もあると思う。
- ・ 広い河川敷があり、色々な実験ができることはよかった。また、家康公顕彰 400 周年、市政 100 周年のきっかけは、まちづくりとして非常によい。
- ・ 根幹として乙川はお城があってはじめて大事なわけであり、お城の話はどこかでしないといけない。100 年、200 年先にお城を中心とした岡崎市ということが残るので、外から来た人がどう見るか、市民の人がどう見るか、そのような視点は欠かせない。
- ・ 地域の総代という立場として、住民と、観光産業化あるいはエンターテインメント的な部分を両立する視点は欠かせないと思う。

#### 部会員

- ・ 机上のものであった乙川リバーフロント事業が部会に参加して身近に感じられるものとなった。
- ・ よかった点は、周りの子供たちに意見を聞くなどして、子供たちを巻き込めたことである。子供たちも自分たちのこととして捉えてくれるようになり、よかった。
- ・ 小学校、中学校ではまち調べ、ふるさと調べという調べ学習がある。そこで町内だけでなく、岡崎市全体、また、このような事業計画も含めて、自分達のことと自分達のふるさとのことを調べていける様に、大人たちが仕組みをつくり、子供たちに伝えることが大事だと思う。

#### 部会員

- ・ セントラルアベニューで終わるのではなく、そこから岡崎全体を楽しんで歩けるような魅力をつくっていききたい。また、皆さんと考えていききたい。
- ・ 観光協会として、全国に対して観光誘客のPRをしていきたいので、よろしくお願いします。

#### 部会員

- ・ これまでに、三河小町は2年でつぶれ、りぶらは民間で経営していたらつぶれるような運営をしており、使い辛いものになっている。中心市街地の人の期待は2度裏切られている。
- ・ 乙川リバーフロント構想は起点であり、出発点であると思う。中心市街地活性化について前の市長のときに出されたが、乙川リバーフロント構想を基盤とした活性化を図るための中活をもう一度とりに行っていたらいい。難しいのであれば、国土交通省のコンパクトシティについての集約都市形成支援制度も検討に入れていただきたい。
- ・ 商店街を形成するなかで、市役所、市民、企業が三位一体で動くことで活性化が進むと思う。
- ・ 太陽光発電の話が他であったが、もっと大規模なものとし、売電するのではなく、蓄電施設を設けて、常時はライトアップ等に利用し、緊急時には非常用として避難先で用いる。災害時は3日あれば何とかなる。岡崎市全体で太陽光発電を利用すればよいのではとの話

があった。

- ・ 10年前に資産税課に行った時、東康生の路線価が最も高額の際は520万円。そこから80万円に下がったが、3年後にやっと固定資産税が1万円くらい下がった。税金下げろとは言わないが、多く徴収する分、是非、中心市街地に投資してほしい。

#### 岡崎市

- ・ 乙川リバーフロント地区整備事業で行うことは地域の活性化である。
- ・ 現在、国土交通省では地方自治体が軒並みつぶれるのではとの危機感、問題認識がある。
- ・ その中で地方自治体を応援する上でのキーワードが「コンパクトシティ&ネットワーク」である。地域全体を改善するのは難しいため、まず中心市街地を応援しようとの取り組みである。
- ・ 活性化を行う上で、岡崎市の持っている特性を活かす必要があり、それがまちの中心を流れる乙川であり、歴史である。国の立場として、これを応援するのが、「かわまちづくり」であり、「歴史まちづくり」である。
- ・ かわまちづくりは、10年前であれば、河川でのイベント等についてダメと言っていたことが、今では、活性化に向けて応援しようという制度となっている。
- ・ 岡崎は素晴らしい財産である河川や歴史資産をもっており、国には、それを応援する制度があるので利用して活性化を図っていきたくて考えている。引き続きよろしくお願ひします。

#### 部会長

- ・ 持論であるが、賑わいあるいは活性化の創出の条件として3つの「なみ」がある。「人波」「街並」「営み」であるが、さらに大事なことは、「毛並」である。「毛並＝品格や個性」。どこの市町村もそこを出している。岡崎も独自性をだしていく必要がある。他市とは違ったオンリーワンのまちづくりにつながる。

#### 内田市長

- ・ 部会長はじめ、乙川リバーフロント推進部会の皆様には、これまで1年間、熱心な議論をいただき、本当にありがとうございました。
- ・ 皆様からいただきました様々なアイデアについては、乙川リバーフロント地区の整備計画として、来年度からの事業実施に向けて予算要求を行っている。
- ・ 河川管理者に対しても積極的に支援いただくために、かわまちづくりの協議会の手続きを進めている。
- ・ 今回の計画に盛り込めなかった部分もあるが、今後の事業展開の中で、取り込める部分は取り込んでいきたい。長い目で見ていただければと思う。
- ・ 私自身、事業展開について運命的なものを感じている。乙川リバーフロント計画の基は、40年、50年前からある。それが積み重なって、今回皆様に精査していただき形になってきている。
- ・ 選挙の公約でもある「川」と「歴史」について、まさに「かわまちづくり支援制度」「歴史まちづくり支援制度」がある。国土交通省からも応援をいただいている。
- ・ 私の言うことが観光産業の振興にとらわれていると感じている方がいるが、それは過程であり、究極の目標は、岡崎に生まれた子供たちに、岡崎のもつ素晴らしい自然景観をもう一度見直してほしい。そしてふるさとに対する愛着を持ってほしい。また、先人たちの偉大さを知り、誇りを持ってほしいということである。

- ・ お城については、城郭として全国で4番目に大きいこと、天守閣の形が大阪城を模したものであること、など私自身も知らないことが多く、そうしたものをしっかりアピールすることが必要であり、まず、私たちが行うことは「見える化」をはかっていくことである。ただし、景観を損ねるものではないこと。
- ・ 広島大学の三浦先生からは、木造で再建すれば400年持つが、鉄筋コンクリートであれば80年、超寿命化しても120年と言われた。専門家の方からは、木造で再現してほしいと言われた。
- ・ 但し、個人的に反対の意見もあり、今の時代に再建して本当に楽しい人がどれだけいるのかと思う。また、岡崎城は本物の設計図が残っていないため、国の補助金がもらえない。鉄筋コンクリートで造れば、技術は向上しているため、更に長寿命化が計れると思っている。少なくとも、お城の中で快適に楽しんでいただけるし、現在のようにお城の中を博物館としても利用できる。しかし、木造としての市民の声が多ければそれも考えていく必要がある。中学生の皆さんには、私ではなくあなたたちの世代で決めて実行して下さいと頼んできた。
- ・ 私たちは今の時代でできることをできる限り行ない、将来に向けて考えていくことは、わかるようにして伝えていく必要がある。
- ・ お城が鍵。素晴らしいものでなければならない。
- ・ これだけ長いこと話しているが、「また中心市街地か」と言われることがある。最近はどうして南ばかりかと言われる。なかなか実態を分かっていただけない。これはあくまで岡崎の歴史まちづくりの第一歩である。岡崎には、東照宮や大樹寺など国の文化財指定を受けている建物が13あり、愛知県下で一番多い。残念なことに、市民も忘れてしている。このようなことを内外にしっかりとアピールする必要がある。
- ・ 岡崎全域の中に東西南北に観光コースをつくる。それができれば、岡崎の経済の柱として、ものづくりに並ぶものが出てくる。
- ・ 岡崎には岡崎にしかないネタがある。今後、これらを皆さんの力を借りてまちづくりに活かしていきたい。
- ・ 子供たちが自分達の誇りとしてとらえて、この岡崎を好きになってほしい。そんなまちをつくりたい。

## 副部長

- ・ 市長に伝えたいことがある。「岡崎戦災復興史」という戦災復興について書かれた都市計画の本があり、都市計画の権威である石川栄耀氏(いしかわひであき)がその中に、岡崎の乙川(明代橋から岡崎公園)について、「水の銀座とせよ。沿岸をきれいにして芝生にし水の銀ぶらを楽しませよ」とS26年の段階で言われている。岡崎のリバーフロントにつながる源流がこのときからあると感じた。
- ・ 乙川リバーフロントが中心地だけのものと言われることに違和感がある。乙川の流域は、岡崎市の2/3を占めている。岡崎市に降った雨はほとんど乙川に流れ込んでいる。自分のところに降った雨が入る乙川のアクティビティを楽しまないでどうするのかと感じる。
- ・ 逆に、豊かな水を形成していることや、乙川があることでお城があることから、豊かな川をつくってくれている岡崎の地域の人にも恩返しをすることで、相互の関係をつくり、市民が乙川は自分たちのものだと思えるようになるとうい。
- ・ これからも岡崎市の宝として発信していければと思う。



## 内田市長

- ・ 「乙川リバーフロント」という言葉について、駅前～乙川～中心市街地までを一連に捉えるべきだと言ったのは私が初めて。
- ・ 額田地域についても今後取り組みたい。今後もよろしくお願いします。

## (5) その他

特になし。

## 4 閉 会

岡崎活性化本部より閉会宣言。

以 上